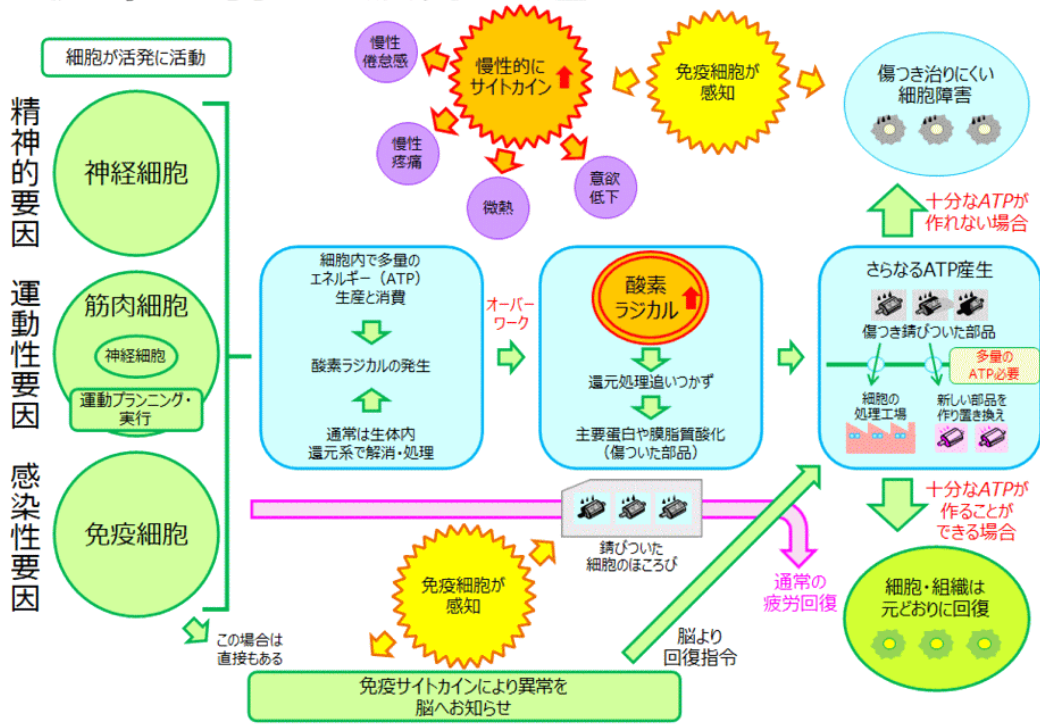


1999年、科学技術庁は、国民の税金を社会に目に見える形で還元することを目的として、「生活者ニーズ対応研究」の公募を行いました。当時、私たちは厚生省および文部科学省の支援のもと、慢性疲労に関する臨床研究を進めていましたが、本公募は大規模な国家プロジェクトであったことから、ぜひ挑戦しようと考えました。

そこで、大阪バイオサイエンス研究所第3部門部門長の渡辺恭良先生と連名で、「疲労・疲労感の分子・神経メカニズムの解明とその防御に関する研究」を提案し、幸いにも採択されました。本研究は2005年までの約6年間にわたり実施され、疲労研究の基盤となる多くの成果が得られました。

## 健康脆弱化・疲労共通のコアメカニズム



「疲労・疲労感の分子・神経メカニズムの解明とその防御に関する研究成果の一部」概要図 渡辺恭良